



鉤型民家が最も発展した形とされる太田家住宅

## 町並みについて

- ◆湯前町から錦町までの水田約1,385ヘクタールを潤す球磨地方を代表する農業用水路である幸野溝(灌漑用水)を中心に形成された農村風景の中に、国指定重要文化財となっている太田家住宅があります。
- ◆中原地区は、この江戸期の新田集落の面影を今に残しており、鉤(かぎ)型民家の太田家住宅や当時の屋敷地割、石垣を見ることができます。



幸野溝がある町並み

## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物

### 🏠 太田家住宅

国重要文化財

- ◆太田家住宅は鉤型の寄棟造りの民家で、茅葺きの屋根はニヶ所で折り曲げた「二鉤(ふたかぎ)」とよばれる特徴的な外観になっています。
- ◆人吉藩は家作りの規制が厳しく、上級武士以外は小規模な住宅に制限されていたため、下級武士や足軽の場合は、梁間三間以上の住宅が禁止されていました。このため、球磨地方では住宅の部屋数と規模を拡大するため鉤型に棟を伸ばした民家が多くみられ、同住宅は球磨地方の鉤屋の民家を代表する建造物として国重要文化財に指定されています。



大きな茅葺き屋根がひと際目立つ太田家住宅は、中原菅原神社や福田寺が置かれている集落の中心にあります。同住宅は人吉地域の基幹用水路である百太郎溝に注ぎこむ幸野溝とともに、球磨地方の農村を象徴する景観を作り出しています。